

近江八幡警察署協議会議事録

開催日時	令和3年9月17日（金）午後1時15分～午後5時	
開催場所	近江八幡警察署 5階大会議室、機動隊	
出席者	委員	村井幸之進会長、谷村明美委員、水敬造委員、中村ジルベルト委員、大橋裕子委員、山本勝士委員 計6人
	警察	署長、副署長、調査官（警務課長）、調査官（会計課長）、生活安全課長、地域課長、刑事課長、交通課長、警備課長 計9人
議事概要	<p>1 会長挨拶</p> <p>オリンピック・パラリンピックが無事終了し、非常に感動したその一方で、現在新型コロナ第5波にさらされている。滋賀県においても9月末まで緊急事態宣言の延長が発表されたが、犯罪等は時節を問わず発生しており、大きな負担になっていると思う。</p> <p>また、新型コロナウイルスという災害レベルの事態に加えて、自然による土砂災害などが各地で発生しているが、改めて滋賀県は災害発生があまりなく、恵まれた地域であると感じる。しかし、いつ災害が発生するか分からないということは肝に銘じておかなければならない。そのような中で、警察官の方々が犯罪の抑止だけではなく、災害発生時には人命救助のために現地派遣されており、今回、その経験をお話していただき、勉強させてもらうわけであるが、市民はそのような活動を警察の方々がされているということあまり知らないと思うので、我々が市民に広く周知していくことも大きな役割だと思っている。</p> <p>新型コロナの緊急事態宣言下ではあるが、感染対策を万全にし、協議会の使命を全うするという形で協議会を開催させていただくので、協力願う。</p> <p>2 署長挨拶</p> <p>本日の議題について、今月9月1日が防災の日であり、国内では時に強い地震が発生するなど、常に災害対策が求められており、当署においても、日頃から災害対策に取り組んでいる。後程、東日本大震災の発生時に福島県警察へ出向した職員から、災害警備の重要性等について発表させていただく。</p> <p>東日本大震災に関しては、被災地の方々と警察官の復興への思いを描いた書籍が発刊されており、その一部を御紹介させていただく。</p> <p style="text-align: center;">～内容紹介～</p> <p>ただ今、御紹介した内容は、一般の方々が東日本大震災警備にあたる警察官の姿を目の当たりにし、感じられたことであるが、私自身も、これを読んで深く感動するとともに、皆さんが警察に寄せる期待を改めて感じたところである。</p>	

コロナ禍において、当署員は各種現場において、感染防止対策をとりながら、近江八幡地区皆様の安全で安心な暮らしを守るため、日夜奮闘しているところである。

各委員の皆様におかれては、当署の業務運営がより良きものとなるよう、忌憚のない御意見、御提言を賜るよう、よろしくお願ひしたい。

3 議事

(1) 署員による体験発表

東日本大震災災害派遣で福島県警察へ出向した体験の発表を行った。

(2) 体験発表の感想

(委員)

一般人は、震災時の警察官による活動を知らないことの方が多い。震災当時、警察官が列車から避難誘導をしていたことも全く知らない。当時は自衛隊の方々の活動ばかりが取り上げられていたが、警察の方々がたくさんの活動をしてきていることをもっとアピールしてほしい。

(委員)

警察官の方々が建設的な活動をしてきていることを、もっと色々な方に知っていただきたいと思う。

(委員)

出向された当時は若くて不安もあっただろうが、自分自身にとっても良い経験、宝物になったと思う。震災時の救助救援活動は、日本だけでなく世界に発信されているだろうし、震災発生時の良い見本になればと思う。

(委員)

当時は色々な団体が復興作業に従事していただろうが、警察官の活動はほとんど脚光を浴びていなかった。色々な発信の仕方もあるだろうし、このような活動は特にもっと情報発信してほしい。

(委員)

警察という組織の中で選ばれて出向し、色々な活動をしていただき、福島県、ひいては日本を助けていただいたことに非常に感銘を受けた。

(委員)

災害警備の出向は、誰でも体験できるものではないし、発表者だからこそ選ばれたのだと思う。

4 その他

次回の協議会は、12月中旬に実施する予定となった。

5 視察

議事終了後、機動隊へ赴き、視察を行った。